

平成 21 年度第 1 回太子町保健福祉審議会議事録

日時：平成 22 年 1 月 26 日（火）午後 1 時 30 分～2 時 55 分

場所：太子町役場 委員会室

平成 21 年度第 1 回太子町保健福祉審議会 議事録

1. 審議会の開催日時及び場所

日時：平成 22 年 1 月 26 日（火）

開会：午後 1 時 30 分

閉会：午後 2 時 55 分

場所：太子町役場 2 階 委員会室

2. 審議事項

「太子町次世代育成支援行動計画（後期計画）」について

3. 委員の出席・欠席者

出席委員：龍田 孝夫 龍田 晃 奥田 重信 小野 英子 三木 玲子

 横山 郁子 （代理） 山崎 武憲 （代理） 竹本 敏子

欠席委員：森澤 英一 篠 豊美

4. 事務局及び説明員

事務局：生活福祉部長 丸尾 満 社会福祉課副課長 宗野 祐幸

町出席者：町長 首藤 正弘

町説明員：社会福祉課長 井上 一幸 主査 熊谷 恵之

5. 審議会経過及び結果

別紙にて記載する。

1. 開 会

2. 会長選出

委員の互選により森本正之委員を会長に選出

3. 諮 問

「太子町次世代育成支援行動計画（後期計画）」について

4. 議事録署名委員の指名

会長が龍田孝夫委員と龍田晃委員を指名

5. 審議事項

(1)「太子町次世代育成支援行動計画（後期計画）」について

事 務 局： 「太子町次世代育成支援行動計画（後期計画）」(案)について説明

森本議長： ただ今二人の説明員のほうから資料の説明がありました。質疑応答ということで質問をお願いしたいと思いますので、よろしくお願いします。

三木委員： 子育て支援には、民生委員も関っていきたいと思いますが、個人情報の保護がネックになって、子供たちがどこに何人いるのか分からないので、情報開示を進めてもらいたいです。それと、私は、男女共同参画意識の啓発の中で男女共同参画プランに参加したことがあるが、ほとんど女性ばかりで男性が少なかった。このプランは、女性の地位が低くてプランの内容は良くなかったと思います。参画するにはどうしたらいいのか企画の検討が必要だと思います。

森本議長： 個人情報につきましては、何かありますか。
自治会には、情報が入ってきません。自治会としても非常に困っていますが、法律がある以上どうすることも出来ないと思います。民生委員にはもう少し情報が流れるのではないのでしょうか。

事 務 局： 名簿の件ですが、個人情報の関係で、このお宅に誰が住んでいるという事はお知らせできないのですが、自治会で子供会が活動されておりますので、役員さんからの名簿の提供は可能であると思います。

森本議長： それでよろしいでしょうか。

三木委員： わかりました。

森本議長： 男女共同参画の件はどうですか。

事 務 局： 男女共同参画プランですが、21 世紀の最大の事業として国が取り組んだ事業ですが、太子町においても平成 16 年にプランを作りました。参加する時は女性が多かったのですが、今後は色々な方に子育てを含めてですが男性に家事とか育児をしてもらいたい。

やはり男女雇用均等法もありますので、昔は育児は母親がして父親は外で働くと言われていましたが、今の時代は、子育てに色々な負担がかかるので、男性は勤めていても、女性に負担がかかりすぎると子供の育成に好ましくない。そこに男性の力が必要と考えております。

森本議長： どうですか。

三木委員： 男女ともに生きるという意味で一緒に参加できたらいいのですが、女性の方が先にそれが進んでしまって、男性の年配の方の意識がまだまだ追いついてこない。年配の男性は男女共同参画の会合に出にくい状況で、私たちが初めて男女共同参画プランを受けたときは、女性が多かったです。今の若い方は、かなりご主人の理解があるようですが、男性にどういう風に理解していただける機会があるのでしょうか。

森本議長： 私も子育てには気をつけているのですが、男性と女性の気質の違いもあると思います。また、子どもの感覚として、母親によくなつくという感覚があり、父親は、その次となる気が私自身は感じます。しかし、できるだけ、育児に男性も参加し、子育てをお互いに助け合いながら、生活できる社会にもっていかねばならない段階にきていると思います。

小野委員： 私は、今の父親は、子どもの面倒をよく見ていると思います。家事もよくやっているし、父親、母親はかなり上手にその特性を活かして子育てをしているように見えています。

森本議長： 私もそういう流れになっていると考えます。会社、地域社会も含めてそうなってきたと感じています。

事務局： 参観日についても、今は男性もよく参加しているし、会社を休んでまで参観するということを聞いています。そういう面では、男性も子育てには関心を示していると考えられます。

小野委員： 昔は、働いていない母親が多かったので、地域の子ども会などの会合には、母親が出ることが多かったのですが、今は、働いている母親も多いので、父親、母親の役割分担により支えられているようなので、環境としてはかなりよくなっていると思います。

横山委員： しかしながら、村落では、まだまだ封建的で男性の発言力が強く女性は発言しにくいところがあるようです。家庭では、男女が共に支えあっているようですが、社会ではそうでもない部分もあるようです。女性も社会進出していますが、会社でも管理職に男性が多いという傾向があるようです。社会では、まだまだ浸透しているとはいえないと考えています。男女共同参画の施策でも、女性が多く参加するものでなく、男性にもっと参加していただきたいと考えます。

奥田委員： 自治会でのふれあいサロンでは、一般的に男性はコミュニケーションの取り方が上手くないと考えます。その反面、女性は会話が上手です。それぞれの特性を活かす必要があると思います。

森本議長： 単位自治会でも女性が会長になるなどの活動が必要ではないでしょうか。自治会の会長が女性であれば、そうしたことから男女の差は小さくなると考えられます。

小野委員： 女性の校長先生も増加しているようです。

龍田(晃)委員： 自治会の活動においても全体会合の場では、男性がよく発言します。いざ、決めるとなると男性の参加が少なくても発言は多い。しかし、決まった後でも、各家庭では、女性の意見も強く、翻る場合もある。

また、各自治体で、準要保護の家庭が増加していると思います。また、離婚を安易にしすぎるような感じをうけます。その離婚のあり方は、かつては、女性が子どもを連れて出て行くという感じがありましたが、最近では、離婚後、男性が一人出ていき、女性と子どもが家に残る場合が多いように思います。いずれにしても結果的には、学費負担に関しては教育委員会において準要保護の対象となってきます。子育て支援の施策、情報が充実してきていることと、離婚の増加に繋がりはあるかは、明らかではありませんが、民生委員さんの調査等によって収入が少ないことがはっきりしているのであれば、学費を補助してもらえるようにしてあげたいという気持ちもあります。男女のあり方も大切ですが、やはり、子どもとの生活を一番中心に据える世の中になってほしいものです。

龍田(孝)委員： 私は、委員さんの中では世代が少し違いますが、私の父親は仕事が中心で、家庭より仕事を選択し、家事は母親が専業で行っていました。今の世代では、女性はパートを含め、社会進出されていて、考え方は変わってきています。私自身も、家庭を中心として育児も共同でやっていこうという考え方でいます。しかしながら、母親が社会に進出することによって、子どもが学校から帰ってきて誰もいないということがありますので、子どもの教育としてはマイナスの面もあるかもしれないと考えています。

山崎委員： 全体的には、太子町の分析にもありますが、世代間での育児意識の感覚の差は大きいと思います。そして、若い人にとっては父親、母親がともに子育てを行うことへの違和感は少ないと思います。自治会等での会議への出席については、女性の方が多いのは、専業主婦もおられるので、止むを得ないのではないかと思います。

竹本委員： 具体的には、この計画の具体的な事業に取り組む主管課を明確にする必要があるのではないのでしょうか。どの課とどの課が連携してどのような事業をするのかを明記することが重要ではないのでしょうか。例えば、情報通信機器の関連については、学校が行うのか地域で行うものなのかということだと思います。また、いかに住民にサービスを周知するのかということをお願いしたいです。例えば、一人親になった場合にはどんなサービスを受けられるのかを周知するということです。また、離婚率については、100件程度で推移し増加しておりますが、離婚する人は多いという印象、実感があります。

次に、望まない妊娠、出産については、若い世代に多く、これから次世代の親を育てるという視点からは、小学校、中学校、高等学校で子ども達にどのような教育をするかということで、これからの男女の性差を考える上でも大きく関係していくのではないかと思います。また、思春期保健対策事業がありますが、これも若い親が、本当にしっかりと子育てができるかということを考えると、その親が若いうちから、男女の違い、生きるという意義、赤ちゃんとふれ合う機会を設けるなど、子どもたちに対して次世代育成事業として実施すべきではないかと、日々の保健師業務の中で考えています。

また、少子化対策としては、不妊治療制度についても周知する必要があると考えています。この治療は、保険適用外の治療であり、とても高価なものです。少子化対策としては、妊娠できない人の解消も課題の一つでもあるので、不妊対策については県も実施しているので、町も費用援助等の施策の検討をいただければと考えています。

森本議長： 全般的によくできている計画だと考えます。以上で質疑を終了し、次回までの継続審議とすることよろしいでしょうか。

委員全員： 異議なし。

事務局： 次回の日程については、3月4日(木)午後1時30分 委員会室を予定しています。当継続審議案件について答申いただく予定であります。

この議事録が真正であることをここに署名する。

平成22年2月8日

署名委員

龍 田 晃 

龍 田 孝 夫 